

る由義之関戸一家のまた志村九郎兵衛と申者後の御守
とて酒田の城をとりて城番とて最上家代々の系
圖并白鷹一居の馬平足月山打の長子之孫十挺の村邊
上よりけりたれぬの御守もば酒田通縁よりて越後の
り上よりて山平考を市所を宿所とて内機嫌を伺ひ申
上げまはば遠國より使者よりて召伴ひ下り近庭上
らふされけり物とて其上様も九郎兵衛に直に召
ねやとて家内迄なれ則最上も御守とは返状され
ける然るも何とて十郎を討捕りと思召一衆臣氏

家内張守と評定ありて宅張守方より十郎をく連しける様
近隣不和とて國の通縁も不自由とて諸人困窮あり
能く義之貴者と和平はなれぬ同内同心よりたてし向
後より無事候十郎は身女とて義之嫡子修理大
より嫁しける色より而縁ひ申越しける十郎殿も執事
と思案ありて近年義之武勇の姿をゆくに中々末遂に
て敵討りけりて是より上宅張無事の變申越しける
幸に義之と和睦し加勢と請け近隣とより又内勢治
大よりけり其時又より様も保ちけりてと分別し義之